

令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立平石中央小学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や児童の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって児童を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校児童の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第4学年、第5学年（国語、算数、理科、質問調査）

中学校 第2学年（国語、社会、数学、理科、英語、質問調査）

4 本校の実施状況

第4学年	国語	12人	算数	12人	理科	12人
第5学年	国語	6人	算数	6人	理科	6人

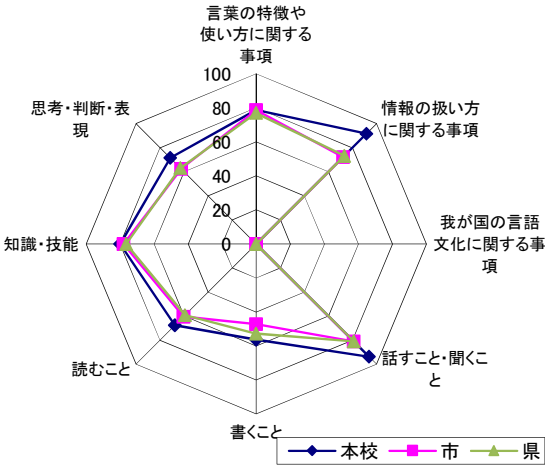
5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立平石中央小学校 第4学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	78.7	78.6	76.9
	情報の扱いに関する事項	91.7	72.2	73.1
	我が国の言語文化に関する事項	0.0	0.0	0.0
	話すこと・聞くこと	93.8	81.0	81.1
	書くこと	56.3	47.2	52.8
観点	読むこと	67.7	60.5	59.3
	知識・技能	80.0	78.0	76.5
	思考・判断・表現	71.4	62.3	63.1



★指導の工夫と改善

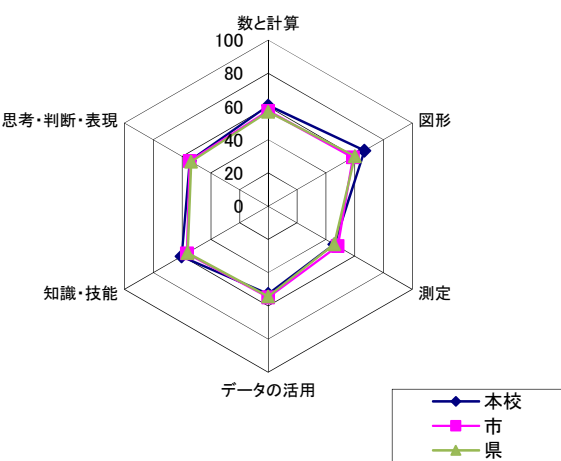
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	平均正答率は78.7%で、市の平均とほぼ同じである。 ○漢字の読み問題は3問とも市平均を上回った。 ローマ字の読み方に関する設問は市平均を14.8ポイント上回った。 ●漢字の書き取り問題は3問とも正答率が市平均を下回った。	・漢字の読み書き、語彙においては引き続き指導し、さらに力を伸ばしていく。また、漢字の学習において、指書きやなぞり書き、写し書きといったステップを踏んだ指導を行い、反復練習する機会を設けたり、AIDリルを活用したりして習熟を図る。さらに、国語科以外の学習活動においても、正しい言葉や漢字を使うよう教科横断的な指導の充実を図る。
情報の扱いに関する事項	平均正答率は91.7%で、市の平均よりかなり高い。 ○国語辞典の使い方に関する設問は正答率が91.7%と県平均を19.5ポイント上回った。	・引き続き国語科だけでなく、他教科や意味調べなどで国語辞典を使う機会を増やし、使い方や語句の並び方など、基本事項について正しく理解できるよう定着を図る。
話すこと・聞くこと	平均正答率は93.8%で、市の平均より高い。 ○4問すべての設問で正答率は市の平均を上回った。	・様々な教科において互いの意見の共通点や相違点に着目して聞きながら、自分の意見をまとめ、理由を明らかにして述べるができるように、話し合い活動を充実させる。その際には国語の学習で学んだことを生かして学級活動の話し合いが行えるようにするなど、意識して実践できる場を意図的に設ける。
書くこと	平均正答率は56.3%で、市の平均より高い。 ○すべての設問で平均正答率は市の平均を上回った。 ●段落の役割について理解し、2段階構成で文章を書くことができるかどうかをみる設問では、平均正答率が50%で市の平均よりは14.4%高いが、本校の児童の半数の児童が不正解となった。	・文章作成の際には、国語科の説明文で学習したことを想起させながら、つなぎ言葉の使い方や段落構成の作り方に慣れさせていくことで段落の役割を理解し、それらを活用する力を身に付ける指導の充実にも努める。
読むこと	平均正答率は67.7%で、市の平均より高い。 ○昨年度課題となっていた文章を読んで感じたことや分かったことを共有することができるかどうか問われる設問の正答率は83.3%で、市の平均を26.4%上回った。 ●指示語の内容として適するものを選ぶ設問では41.7%と市の平均を8.8ポイント下回った。	・場面の移り変わりを捉えるために人物や場所、時間などに関するキーワードを見つけて、それを抑えながら文章を読み取る練習を重ねていく。また、引き続き読書の時間を積極的に設けることにより、日常的に文章の内容を読み取る練習をする。

宇都宮市立平石中央小学校 第4学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	60.6	57.4	56.9
	図形	66.7	58.7	60.1
	測定	45.8	48.1	45.7
	データの活用	52.8	54.9	54.3
観点	知識・技能	60.3	56.6	56.2
	思考・判断・表現	54.6	54.5	53.8



★指導の工夫と改善

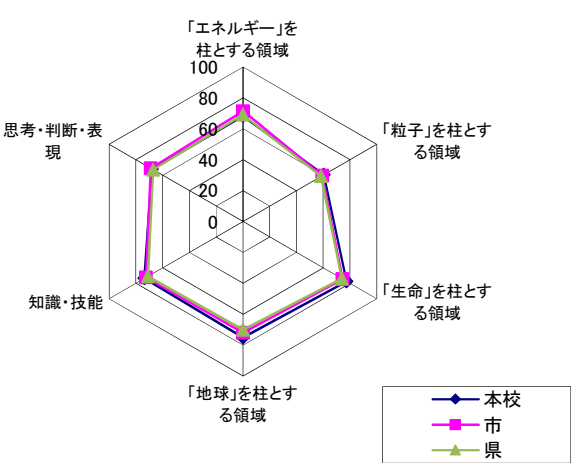
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は、60.6%で市の平均よりも高い。 ○数量の関係について□を使って表された正しい図を選ぶ問題の正答率が高かった。 ●大きな数の表し方について選ぶ問題の正答率が低く、大きな数の表し方や構成の理解に課題が見られる。 ●2桁×1桁を計算する式を立てる問題の正答率が低く、2桁×1桁のかけ算の計算の理解に課題が見られる。	・10倍すると位が一桁上がる、100倍すると位が二桁上がるなど、十進位取り記数法を用いながら繰り返し学習し、10が10こで100、100が10こで1000などの既習事項を取り入れながら指導していく。 ・児童にとって身近な数を提示し、2桁×1桁のかけ算の計算式の文章問題を解くことによって式の意味の理解を深められるように指導していく。
図形	平均正答率は66.7%で、市の平均よりも高い。 ○正三角形の性質を理解し、作図することができるかどうかの問題の正答率が100%であった。正三角形の性質を理解していることが分かる。	・円の性質やそれぞれの図形の性質をしっかりと抑え、繰り返し作図に取り組ませることが結果になったと考える。今後もコンパスやものさし、三角定規などの使い方について丁寧に指導していく。
測定	平均正答率は45.8%で、市の平均よりも低い。 ○時間が経過する前の時刻を求める問題の正答率が高かった。 ●重さを基準量のいくつ分かで考え、説明する問題の正答率が市の平均よりも低かった。重さの単位の理解に課題が見られる。	・時間と時刻を理解できるよう、時計の模型などの具体物を用いて時間を求めてみることを繰り返し行い、時刻を求められるよう指導していく。 ・□gのものが何個でどのくらいの重さになるかを求める問題では、文章をよく読み取り、読み取ったことを図や数直線に表しながら、重さの求め方の理解が深められるよう指導する。
データの活用	平均正答率は52.8%で、市の平均よりも低い。 ○二次元の表を読み取り、合計欄に当てはまる数を答える問題の正答率が市の平均を大きく上回った。 ●目的に合わせて選んだ棒グラフが適切である理由を選ぶ問題の正答率が低かった。棒グラフを目的に合わせて選ぶ理由の理解に課題が見られる。	・二次元の表の見方を理解できるようにすると共に、その数値の計算の仕方もしろいろな表を使って指導していく。 ・問題をよく読み、1目盛りが表している数の大きさに注意しながら落ち着いてグラフの読み取りを行うようにすると共に、そのグラフを使う目的を考えるように指導していく。

宇都宮市立平石中央小学校 第4学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	68.2	71.4	69.1
	「粒子」を柱とする領域	60.4	59.3	58.3
	「生命」を柱とする領域	77.4	74.5	73.8
	「地球」を柱とする領域	75.0	72.0	70.1
観点	知識・技能	73.6	72.5	70.9
	思考・判断・表現	67.9	68.8	67.1



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は市よりも上回っている設問もあるが、下回っている設問もある。 ○音の伝達、回路、磁石の極について理解できている。 ●鏡の反射による日光が重なる部分と重ならない部分の温度の違いを考えるなど、実験結果を基に考える問題に課題が見られた。	・体験的な活動を多く取り入れ、理科的な知識の基礎を増やすことで理科的な知識・技能への理解を深められるようにする。 ・様々な体験や実験から共通することを見つけ出したり、話し合ったりする活動を積極的に取り入れることで、理科の法則性や規則性に注目できるようにする。 ・実験や観察を基に、自分の考えを発表したり、文章に表したりするなど、思考を言語化できるようにする機会を増やす。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は60.4%と、市より上回っている。 ○はかりの使い方が正しく身に付いている。また、体積は同じでも、木・金属・プラスチック等物質によって重さが違うことをよく理解できている。 ●粘土等、同じ物質で広げたり丸めたり形が変化しても重さは変わらないことの理解に課題が見られた。	・体験や生活から疑問をもち、課題と結び付けられようにするなど、児童が目的意識を持って実験や観察を行えるように授業改善に取り組む。 ・日光の明るさや温度変化と日光の重なりについて関連付けたりするなど、実験結果から考察する力とを育てるために、実験結果と予想を比較しながら規則性を考える力を高めていく。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は77.4%と、市より上回っている。 ○観察記録を付けるにあたり、どのような点を記録したらよいかがよく身に付いている。また、昆虫の育ちや昆虫と他の虫の体の違いについてよく理解できている。 ●モンシロチョウの卵の色の理解やモンシロチョウやトンボの育ち方の違いについての考察の書き方に課題が見られた。	
「地球」を柱とする領域	平均正答率は75.0%と、市より上回っている。 ○方位磁針や温度計の用具の使い方の理解が高かった。 ●午前と午後に、日なたと日陰で地面の温度さを調べた結果を適切にまとめた記録を選ぶ設問に課題が見られた。	

宇都宮市立平石中央小学校 第4学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○(2)「家で、学校の宿題をしている。」の肯定的回答は100%だった。学習することに意義を感じながら、家庭学習に取り組んでいる傾向が見られる。

○(23)「毎日の生活がじゅう実していると感じている。」と(25)「グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」の本校の肯定的回答は83.3%, (36)「友達と話し合うとき、友達の話や意見を最後まで聞くことができていく。」の肯定的回答は100%だった。授業は自分で意見を出すだけでなく、友達の話もよく聞きながら、積極的に学習に取り組んでいる様子が見られる。

○(40)「学校の決まりを守っている。」の肯定的回答は91.7%, (52)「自分には、よいところがあると思う。」の肯定的回答は83.3%だった。学習だけでなく、学校生活の中で決まりや自分の役割を自覚しながら活動し、皆のために活躍していると感じている傾向が見られる。

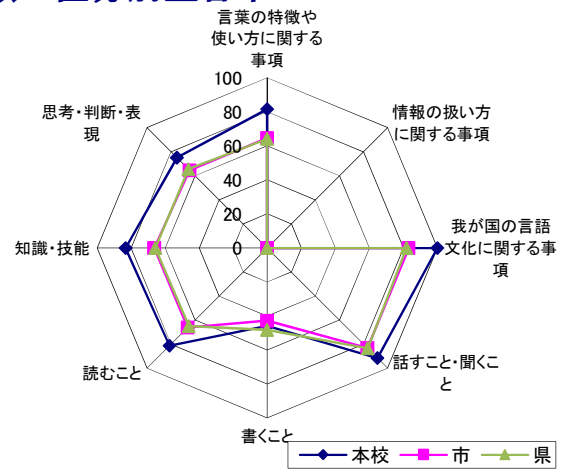
○(64)「自分は家族の大切な一員だと思う。」の肯定的回答は100%だった。家族とコミュニケーションを取りながら、充実した家庭生活を送っている傾向が見られる。

●(18)「疑問や不思議に思うことは、分かるまで調べたい。」の本校の肯定的回答は41.7%, 宇都宮市の肯定的回答の平均は71.4%, (24)「学習に対して、自分から進んで取り組んでいる。」では本校8.3%, 市31.1%と市の平均より低かった。学習には真面目に取り組むものの、学習に対する興味がやや低い傾向が見られた。生活体験や児童がもつ知識等と、学習課題の共通点を探したり、学習することで自分が向上したと感じられたりするなど、児童がより主体的に学べるように授業改善に取り組んでいく必要がある。

宇都宮市立平石中央小学校 第5学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使い方にに関する事項	81.5	64.7	64.1
	情報の扱い方にに関する事項	0.0	0.0	0.0
	我が国の言語文化に関する事項	100.0	83.1	81.9
	話すこと・聞くこと	91.7	83.3	83.4
	書くこと	45.8	42.8	48.2
	読むこと	81.3	66.1	65.1
観点	知識・技能	83.3	66.5	65.9
	思考・判断・表現	75.0	64.6	65.5



★指導の工夫と改善

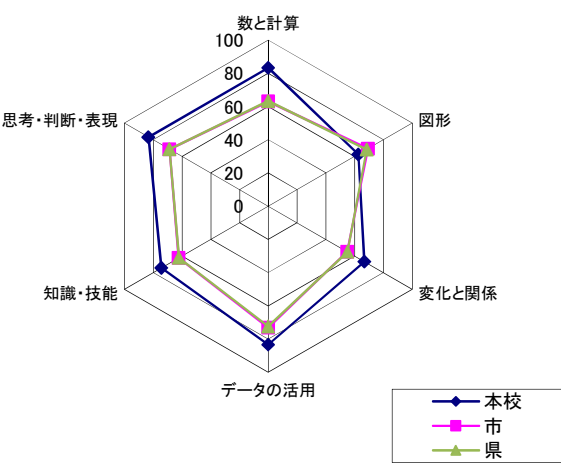
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使い方にに関する事項	平均正答率は81.5%で、市の平均より16ポイント上回っている。 ○漢字の読み書きの正答率が100%のものが4つ、83.3%のものが2つと、漢字の正答率がとても高い。 ●修飾語と熟語の設問の正答率が市の平均より高かったが、正答率が約33.3%と課題が見られる。	・漢字の読み書きにおいては、引き続き丁寧に指導していく。 ・修飾語、熟語等の理解を深めるため、校内及び家庭での読書活動の機会が増えるような声掛けや取組を行っていく。 ・言葉の使い方の指導においては、その単元だけではなく、通年で様々な場面で適宜指導していく。
我が国の言語文化に関する事項	平均正答率は100%で、市の平均より17ポイント上回っている。 ○ことわざの意味を理解して、正しくことわざを使っている文を全員が選ぶことができています。	・日常生活の中でことわざを使ったり、意味が分からないことわざが出てきた場合は調べたりする習慣を身に付けられるように引き続き支援していく。
話すこと・聞くこと	平均正答率は91.7%で、市の平均より8ポイント上回っている。 ○放送を聞き、話の内容に対しての自分の考えを理由を挙げながら記述する設問の正答率は100%で、市の平均より14ポイント高い。 ●放送を聞き、話し手が伝えたいことの中心を捉える設問の正答率は83.3%で、市の平均より5ポイント低い。	・国語の授業だけでなく、学級活動など話し合いの場を多く設定し、役割に基づいて立場や意図を明確にしながら話し合うことや、考えを比べたり、整理したりしながら自分の考えをまとめることができるように引き続き指導していく。
書くこと	平均正答率は45.8%で、市の平均より3ポイント上回っている。 ○資料をもとに2段落構成で自分の考えを書く設問の正答率は50%で、市の平均よりも11ポイント上回っている。 ●50%の児童が、注意する点を守って文章を書くことができていないことが課題。	・段落や字数を守って自分の考えを書くことに課題が見られた。様々な機会での自分の考えを言葉に表し、表現する活動を取り入れ、正しい文章構成ができるように適宜指導していく。
読むこと	平均正答率は81.3%で、市の平均より15ポイント上回っている。 ○叙述を基に文章や指示語の内容を捉える設問の正答率は100%で、どちらも市の平均より20ポイント以上上回っている。 ●文章の内容をまとめた分の空欄に適する言葉を書く設問の正答率は、50%と市の平均より11ポイント低い。	・叙述の中から重要な情報を見付けたり、その情報をまとめたりすることができるように力を入れて指導していく。気持ちの変化を読み取ることにも課題が見られたため、一部分だけでなく全体を通して文章を読むことができるように指導していく。

宇都宮市立平石中央小学校 第5学年【算数】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と計算	83.3	63.0	63.3
	図形	62.5	69.2	68.3
	変化と関係	66.7	54.8	55.0
	データの活用	83.3	73.1	72.3
観点	知識・技能	74.4	62.3	62.1
	思考・判断・表現	83.3	68.7	68.7



★指導の工夫と改善

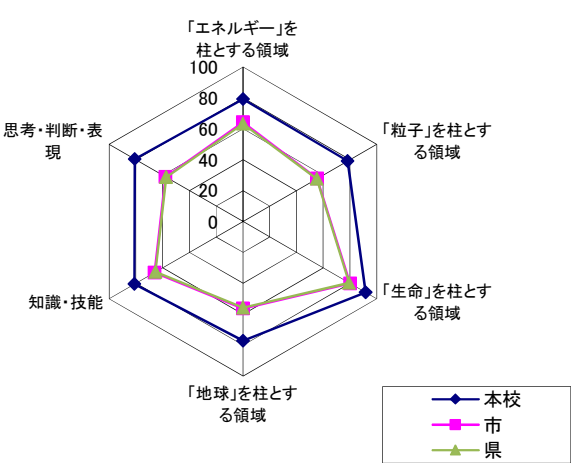
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と計算	平均正答率は83.3%で、市の平均を大きく上回った。 ○帯分数をもとにする分数のいくつかで大きさを考える問題、図の中も数量を式で表す問題、式の意味を表したのとして正しい図式や文章を選ぶ問題については、正答率が100%であった。 ●小数第二位×整数の計算問題では、66.7%と市の平均を下回った。	・分数の理解、計算の仕方については引き続き、定着を図っていく。また、小数の大きさの比べ方や計算などに関しても繰り返し習熟を図っていく。 ・今後も計算の仕方や求め方を考える場面などを通して、考えを言葉で説明する活動を大切にしていく。
図形	平均正答率は62.5%で、市の平均を下回った。 ○立方体と直方体の違いを選ぶ問題では、正答率が100%だった。 ●三角定規を組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、式を選ぶ、回答するとともに正答率が市の平均を下回った。また、ものの位置の表し方からもとにする位置を選ぶ問題の正答率も市の平均を下回った。	・立体の構成要素から立体を見分けるなど、理解できているところは、再確認し、理解を定着させる。 ・三角定規を組み合わせてできた角の大きさを理解し、組み合わせてできた角の大きさを求める問題では、求め方について再確認し、式を立てて求められるようにしていく。 ・ものの位置の表し方を再確認し、具体化して考えていくことで、もとにする位置について考えられるようにする。
変化と関係	平均正答率は66.7%で、市の平均を上回った。 ○表を縦に見て、従って変わる2つの数量の関係から年齢を答える問題では、正答率が83.3%と高かった。 ●割合を使った長さの求め方を説明する問題では、正答率は市の平均よりも高いものの、50.0%と他に比べると低かった。	・表を見て、従って変わる2つの数量の関係の示し方を再確認し、式に表すなどしながら理解を定着させるようにする。 ・割合を使った長さの求め方では、児童がより具体的にイメージできるように関連した内容を指導していく。
データの活用	平均正答率は83.3%で、市の平均を上回った。 ○二次元の表の空欄にあてはまる人数を答える問題では、正答率が100%であった。 ●折れ線グラフと棒グラフの複合グラフから読み取れることとして、正しいものを選ぶ問題では、正答率が66.7%と市の平均をやや下回った。	・今後も二次元の表の数が何を表しているのかを調べる際には、縦軸と横軸をよく見て、丁寧に読み取っていくように指導していく。 ・グラフや表を読み取ることに限っては、他教科の授業でもグラフ等を積極的に活用し、更に理解を深めていく。

宇都宮市立平石中央小学校 第5学年【理科】 分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	「エネルギー」を柱とする領域	79.2	64.3	63.2
	「粒子」を柱とする領域	78.3	55.4	55.1
	「生命」を柱とする領域	91.7	80.1	79.3
	「地球」を柱とする領域	77.1	56.4	55.8
観点	知識・技能	81.1	66.0	65.3
	思考・判断・表現	80.8	57.9	57.4



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
「エネルギー」を柱とする領域	平均正答率は79.2%で、市より上かなり回っている。 ○乾電池のつながり方によって電流の強さが変化することや電流には流れる向きがあることを理解し、問題に適切に答えることができた。 ●空気が温度によって体積が変化するという性質を活用し、例示の事象が起こった理由を文章で説明する問題に課題が見られた。	・単元の導入では、体験的な活動や児童の生活経験と結び付けられる話題を取り入れることで、課題と実生活のつながりを意識させる。これにより、児童が学習の目的や意義を自覚しながら、主体的に実験や観察に取り組めるよう、授業の工夫を行う。 ・時間が許す限り、実験や観察を複数回実施することで、児童の経験を積ませる。これにより、実験や観察から見られる現象の特徴や規則性について、自ら気づき、考えを深められるようにする。
「粒子」を柱とする領域	平均正答率は78.3%で、市よりかなり上回っている。 ○金属の熱の伝わり方の特徴や水の対流によるあたたまり方についてよく理解し、問題に適切にこたえることができた。 ●閉じこめた水や空気を押したときの物理的な作用について理解できていたが、水と空気を同じ容器の中に閉じこめて押したときの変化を考える問題について課題が見られた。	・身の回りの動植物について、児童が自分の知識を言語化する機会を設けるとともに、継続して動植物の様子を観察させる。こうした活動を通じて、知識と観察の事実を関連付け、理科学的な見方や考え方を育てる。 ・自分の考えを発表したり、文章にまとめたりする活動を増やすことで、児童が思考を言語化できるようにする。 ・クラス全体での意見交換やグループ活動を通して、他者の考えに触れながら、自分の思考を広げたり深めたりする機会を積極的に設ける。
「生命」を柱とする領域	平均正答率は91.7%で、市よりかなり上回っている。 ○動植物の成長や動き方の観察記録から特徴を考察する問題に適切に答えることができた。 ●ヘチマの一年間の成長に伴う変化について、やや課題が見られた。	・冷暖房器具の吹き出し口の方向やお玉のもちでの素材の違いの理由について考える等、学習で得た知識を日常生活と関連付けることで、学んだ意義を実感させる。
「地球」を柱とする領域	平均正答率は77.1%で、市よりかなり上回っている。 ○天気による一日の気温の変化や土や砂など粒子の大きさの違いから水のしみこみ方が変わることにについてよく理解し、問題に適切に答えることができた。 ●カシオペア座の動き方を考える問題について課題が見られた。	

宇都宮市立平石中央小学校 第5学年 児童質問調査

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「(1)家で、自分で計画を立てて勉強している。(2)家で宿題をしている。」の肯定的回答が83.4%であった。全体的には家庭学習の習慣が身についている傾向が見られる。

●「(5)家で、テストで間違えた問題について勉強している。」の肯定的回答が50%で、宇都宮市の平均64.2%より低くなっている。また、「(6)家で、学校や塾の決められた宿題のほかに自分で考えた勉強をしている。」の肯定的回答が33.4%で、宇都宮市の平均61.4%より低くなっている。これらのことから、決められた学習に取り組むことはできているが、自主学習の習慣が身に付いていない傾向が見られる。学校でも、自主学習についての取組を引き続き推進していきたい。

○「(22)学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役立つと思う。(23)毎日の生活が充実していると感じている。」の肯定的回答が100%、「(25)グループなどの話し合いに自分から進んで参加している。」の肯定的回答が83.4%、「(26)授業では、自分の考えを発表する機会があたえられている。(27)授業では、クラスの友達との間で話し合う活動をよく行っている。(29)授業の最後に、学習したことを振り返る活動をよく行っている。」等の質問の肯定的回答が100%、「(31)授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい。」の否定的回答が83.4%となっている。これらのことから、児童は学習に対して前向きに取り組んでおり、学習への意欲と学びの定着がうかがえる。

○「(40)学校の決まりを守っている。(42)自分はクラスの役割や係の仕事に責任を持って取り組んでいる。」の肯定的回答が100%、「(41)自分はクラスの人の役にたっていると思う。」の肯定的回答が83.4%となっている。これらのことから、児童は学校生活において規律や責任を重んじている傾向が見られる。

○「(50)自分は勉強がよくできる方だと思う。(53)むずかしいことでも、失敗を恐れないで挑戦している。」の肯定的回答が83.4%、「(51)ものごとを最後までやり遂げて、うれしかったことがある。(52)自分にはよいところがある。」の肯定的回答が100%、であることから、自身の学習能力に自信を持ち、新しい挑戦に対して積極的であるだけでなく、過去の成功体験を通じて自己肯定感をしっかりと確立していると考えられる。

○「(62)家の人と将来のことについて話すことがある。(63)家の人は、あなたがほめてもらいたいことをほめてくれる。(64)自分は家族の大切な一員だと思う。」の肯定的回答が100%だったことから、家族との良好なコミュニケーションがとれており、家族の一員としての強い帰属意識が、子供たちの健全な心の成長と高い自己肯定感を育んでいると考えられる。

宇都宮市立平石中央小学校（第4・5学年共通） 学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
・基礎学力の向上 ・自己肯定感の向上 ・児童が自らの学びを見直し、理解や成長を実感する、振り返り活動の充実	・漢字・算数ドリルやAIドリルを活用し、読み書き計算などの基礎学力の向上に取り組む。 ・児童の活躍の場を広げ、自他のよさを認める取組を推進推進する。 ・見通しを持った授業展開の工夫をしたり、振り返りの視点を示し、積極的に振り返りを書くようにしたりする。	・国語・算数・理科の学力調査で、観点別の平均の比較で、市平均を上回るか、ほぼ同等の結果となった。 ・(5)自分にはよいところがある。の肯定的回答が100%であった。 ・(22)学習して身に付けたことは、将来の仕事や生活の中で役に立つと思う。の肯定的回答が100%であった。